

# 文科省に聞く!

## —「留学生30万人計画」達成後の状況は?

コロナ禍において、留学生交流は世界的に一時停滞しましたが、海外では引き続き積極的な留学生受け入れ政策が展開されています。【図表10】。例えば、フランスでは2027年に留学生50万人受け入れをめざし、ビザ手続きの簡素化や国による受け入れ体制の保証を行い、韓国では地域ごとに特区を設け、規制緩和を行っています。今後、留学生獲得競争は激しさを増していくでしょう。日本においては、2019年に「留学生30万人計画」の目標が達成されました。その検証を、当省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、観光庁と共同で実施し、卒業後の我が国への定着や帰国後のネットワーク強化等、より出口に着目して受け入れの質の向上を図ることや、日本人学生を含めた高い国際流動性を実現することの重要性が示されました。これも踏まえつつ、2023年4月に岸田総理を座長とする教育未来創造会議においてとりまとめられた第二次提言では、日本人留学生の中長期留学者の数と割合の向上、優秀な外国人留学生の戦略的受け入れの推進に加え、教育の国際化の推進などが提言されました。

より多くの留学生を受け入れるため、本年度から「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業」を開始し、在外公館や現地の関係機関、企業と連携し、早期からのリクルートや帰国後のフォローアップまでを一体的に促進する日本留学サポート体制の強化を図っています。また、インドに関しては、2023年に開かれた日印首脳会談で、インドのモディ首相から両国間の人的交流の拡大について発言があったこと、ASEANに関しては、2023年は日ASEAN友好協力50周年記念の年であり、関係性を強化していく必要があることから奨学金の重点配分などの交流拡大を促進しています。また、日本

## — オールジャパンでのリクルートと日本への定着化 留学生受け入れ40万人に向けた課題は?

高等教育局  
参事官(国際担当)付  
企画係長

### 塩田 あすみ

しおたあすみ ● 2019年文科科学省入省。2022年復興庁参事官付統括官付主査。2023年文科科学省高等教育局参事官(国際担当)付留学生交流室政策調査係長、2023年12月より現職。



撮影 / 岸隆子

人学生の中長期留学を含めた留学生交流の基盤となる大学の国際通用性・競争力の向上も図っていきます。

## — 留学生受け入れ40万人など、教育未来創造会議第二次提言が掲げる目標達成までの課題は?

現状、海外では、日本の漫画や食などが強いコンテンツとなっていると考えられますが、それだけでは必ずしも日本への留学に結びつくものではないと思います。そこで、日本留学について情報発信をするWebサイトをつくるだけではなく、現地の高校や高校生に対して、具体的な学びの特長やサポート体制の手厚さを広報するほか、入試についても「入学者選抜実施要項」で示したように、受験生の負担軽減に向け、母国でのオンライン入試の導入などの工夫も必要かと思えます【P.30図表11】。

加えて、第二次提言では、2033年までに、留学生の国内就職率を47%から60%に引き上げることも目標とされています。現状、留学生が日本に定着しにくい要因としては、日本語能力や就職活動への不安、その後のキャリアパスの不透明さなどが考えられます。また、受け入れる私たち日本人の意識を変える必要もあるでしょう。このため、「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」【図表9】等を通じて、大学と自治体・企業等が連携し、日本人学生と外国人学生が共に学ぶ「多文化共修」環境を構築することにより、大学を中心として留学生の受け入れ拡大と定着化を進めていきます。

【図表10】主要国の留学生受入れ戦略

	イギリス	オーストラリア	ドイツ	フランス	韓国
留学生受入数	43.2万人(2016) →60万人(2021)	33.6万人(2016) →37.8万人(2021)	24.5万人(2016) →37.6万人(2021)	24.5万人(2016) →25.3万人(2021)	6.2万人(2016) →11.9万人(2021)
受け入れ上位5か国※(2021)	1.中国↑145,779人 2.インド↑83,923人 3.ナイジェリア↑21,241人 4.アメリカ↑19,027人 5.香港16,577人	1.中国93,437人 2.インド↑68,725人 3.ネパール↑32,999人 4.ベトナム14,111人 5.インドネシア11,683人	1.中国↑38,386人 2.インド↑28,773人 3.シリア↑16,653人 4.オーストラリア↑16,231人 5.トルコ↑11,588人	1.モロッコ↑34,961人 2.中国23,450人 3.アルジェリア↑23,177人 4.セネガル↑12,125人 5.チュニジア10,003人	1.中国↑59,344人 2.ベトナム↑24,928人 3.ウズベキスタン↑7,641人 4.モンゴル↑4,902人 5.ネパール↑2,611人
戦略と数値目標・達成目標年	国際教育戦略：グローバルな可能性と成長 高等教育で学ぶ留学生：年間60万人(2030年)	豪州国際教育戦略	ドイツにおける高等教育教育機関の国際化に向けた連邦・各州学術担当大臣の戦略 留学生の受入れ：35万人(2020年)	「フランスへようこそ」戦略 留学生の受入れ：50万人(2027年)	韓国留学生受入れ30万人プロジェクト 留学生受入れ：22万人(世界10位圏に) 大学間交流に基づく学生交流や教育ODA等：8万人(2027年)
特徴的な取り組み例	・外国人学生に対するビザの見直しや申請プロセスの見直し等	・多様なオンライン教育及びオンラインプログラムの提供 ・留学生のオーストラリア内外での就職を念頭においた技能・技術教育の提供 など	・高等教育拠点としての魅力の向上(魅力的な教育プログラムと近代的なマーケティングを通じた主要な留学地としての地位向上)。 ・選抜の改善、学業成績の向上、留学生の統合において大学を支援)など	・留学生を対象とするビザ手続等の簡素化 ・留学生の受入れ態勢の質を確保するため、条件を満たす機関に対するラベルの付与 ・欧州圏外の留学生に対する学籍登録料の差別化及び奨学金の拡大 など	・留学生の誘致強化(特区の新設、留学生ビザに関する規制の見直し、留学生向けの入試にかかる規制緩和等) ・地域需要に合わせた人材誘致及び定住支援・経済協力の需要が高い国(ポーランド、UAE等)、理工系人材が多い国(インド、パキスタン等)の選抜規模拡大など

\*文科科学省「高等教育の在り方に関する特別部会(第4回)」資料、取材を基にBetween編集部にてまとめ

※↑は5年間で20%以上の人数増のあった国を示す